

豊島区制施行80周年記念

文化

創造都市

推進

シンポジウム

SYMPOSIUM ON  
PROMOTING THE  
CULTURAL AND  
CREATIVE CITY

これからの  
文化創造都市  
としまの  
デザイン



主 催：豊島区、公益財団法人としま未来文化財団  
協 力：NPO 法人アートネットワーク・ジャパン  
後 援：文化庁、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）、  
NPO 法人都市文化創造機構

お問 合 せ

豊島区文化商工部文化デザイン課  
〒170-0013 豊島区東池袋2-60-3 グレイスロータリービル庁舎9階  
TEL:03-3981-1476 FAX:03-3981-0680 Email :A0014400@city.toshima.lg.jp

平成25年2月15日(金) あうるすぽっと（豊島区立舞台芸術交流センター）

主 催 者 挨 拶

文化創造都市推進シンポジウム「これからの文化創造都市としまのデザイン」の開催にあたり、関係の皆様、ご参加の皆様にご心からお礼申し上げます。

全国各地よりご参加の皆様をお迎えできたことを大変うれしく思います。

豊島区は、平成 14 年度の区制施行 70 周年をひとつの契機として、区民、民間企業、大学、NPO などの多くの皆様とまさに一丸となって、文化を基軸としたまちづくりを進めてきました。区制施行 80 周年を迎えた本年に開催するこのシンポジウムでは、これまでの豊島区の文化によるまちづくりを振り返るとともに、これからの文化創造都市のあり方について話し合う場にしたいと考えております。

このシンポジウムが、ご参加の皆様にとって、実り多きものとなりますことを期待してご挨拶とさせていただきます。

豊島区長 高野 之夫

プ ロ グ ラ ム

| 時 間           | 内 容                                                                                                                                                                                                                                         | 場 所       |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 15:00 ～ 16:30 | <b>分科会 1</b> 「文化、産業、都市デザインの融合：クリエイティブ産業の現状と課題」                                                                                                                                                                                              | 3 階：会議室 B |
|               | <b>分科会 2</b> 「自治体文化政策と多様な主体との協働」                                                                                                                                                                                                            | 2 階：ホワイエ  |
| 17:30 ～ 18:00 | <b>基調講演</b> 「日本の再生と都市の役割」<br>近藤誠一（文化庁長官）                                                                                                                                                                                                    | 2 階：劇場    |
| 18:00 ～ 18:15 | <b>事例紹介</b> 「豊島区の文化によるまちづくり」<br>高野之夫（豊島区長）                                                                                                                                                                                                  |           |
| 18:25 ～ 19:55 | <b>パネルディスカッション</b><br>「これからの文化創造都市としまのデザイン」<br>◇コーディネーター：<br>後藤和子（埼玉大学経済学部・経済科学研究科教授）<br><br>◇パネリスト：(50 音順)<br>工藤恭孝（(株)ジュンク堂書店代表取締役社長）<br>隈研吾（建築家）<br>蓮池奈緒子（NPO 法人アートネットワーク・ジャパン代表）<br>福地茂雄（東京芸術劇場館長、アサヒグループホールディングス（株）相談役）<br>吉岡知哉（立教大学総長） |           |
| 20:00 ～ 21:00 | <b>レセプション</b><br>◇企画：としまアートステーション構想事務局<br>◇フードコーディネート：<br>EAT & ART TARO、中山晴奈、L PACK                                                                                                                                                        | 2 階：ホワイエ  |

## 登壇者紹介

### 分科会 1

## 文化、産業、都市デザインの融合 クリエイティブ産業の現状と課題

自治体文化政策において、アート（文化芸術）振興のみならず、文化を産業、教育、福祉、まちづくり等と結びつける政策は、今後の課題となっています。

そこで、この分科会では、クリエイティブ産業の現状と課題に焦点を当てて、豊島区の課題を明らかにするとともに、文化と産業（経済）が循環する都市空間のあり方について議論したいと思います。

#### ◇コーディネーター

#### 後藤和子（埼玉大学経済学部・経済科学研究科教授）

京都大学理学部卒業・京都大学大学院経済学研究科修了 博士（経済学）。

国際文化経済学会（ACEI）理事（2006－2012年）。文化経済学会＜日本＞会長（2010年7月～2012年9月）として、2012年6月京都にて国際文化経済学会大会を主催。オランダ・エラスムス大学客員教授（2004～2005年）。

主な著書に『芸術文化の公共政策』（勁草書房、1998年）、『文化政策学』（編著、有斐閣、2001年）、『市民活動論』（福原義春氏との共編、有斐閣、2005年）、『文化と都市の公共政策：創造的産業と新しい都市政策の構想』（有斐閣、2005年）、2013年春には、クリエイティブ産業に関する新著を、有斐閣から刊行予定。

#### ◇パネリスト

#### 鈴木淳（台東デザイナーズビレッジ村長）

株式会社ソーシャルデザイン研究所代表取締役。繊維や皮革等のファッション系モノづくり企業やクリエイターのマーケティングをサポート。2004年、台東区からファッション系創業支援施設「台東デザイナーズビレッジ」のマネージャーを受託。クリエイターを起業家として育成し、これまで42組の卒業企業を輩出。そのうち半数が台東区内で活動し、職人の街をクリエイターの街にイメージを変えつつある。

台東区南部を「徒蔵（かちくら）」と名付け、デザビレ卒業生や地域の企業・ショップとともにモノづくりの街を体験するイベント「モノマチ」を開催し、モノづくりをテーマに地域活性化に取り組む。東京都から墨田区皮革産地の事業、山梨県から富士吉田織物産地の指導なども受託し、クリエイターとモノづくり企業のコラボ等にも取り組んでいる。

#### 高埜秀典（豊島区染井銀座商店街振興組合理事長）

豊島区染井銀座商店街で婦人服店「マリーズ」を経営。ソメイヨシノの発祥地である豊島区駒込をPRするため、桜にちなむオリジナルの酒「染井桜」を作るなどして様々なまちおこしを手がける。

「人にやさしい商店街」をモットーに、「ふれあいアートストリート」事業を展開。多数の店先に障害者美術展の入選作品等を飾り、商店街の回遊性を高めるとともに、商店街に存在する空き店舗を活用した「Bakery Café あうる」を2010年3月にオープン。カフェの運営は近隣の駒込福祉作業所の通所者と地域のボランティアによってなされている。同事業は、福祉・商店街振興・文化が融合した好事例として第7回東京商店街グランプリにおいて準グランプリを獲得した。

#### 田中一雄（株式会社GKデザイン機構相談役）

1956年東京生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。2007～2012年までGKデザイン機構 代表取締役社長。GKデザインは創立60周年を迎えた総合デザイン会社。キッコーマンの卓上醤油瓶から、JR東日本の通勤電車・新幹線、ヤマハのバイク等を幅広く手がけている。富山LRT（路面電車）計画では、車両、交通施設、ビジュアルアイデンティティ、広報計画、まちづくり活動などを一括してトータルデザインとして実施。各方面から高い評価を受けている。豊島区内では、サンシャイン通りの街路設計、豊島法人会会館など。公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会理事、公益財団法人日本デザイン振興会理事。国際インダストリアルデザイン団体協議会（Icsid）元理事。国内外数多くのデザイン賞審査委員を歴任。

#### 松岡一久（株式会社エナジーラボ代表取締役）

1960年大阪生まれ、神戸大学工学部卒、一級建築士。（株）環境事業計画研究所、（株）SCIを経て、1991年に浜野商品研究所（現在の北山創造研究所）に入社、2007年（株）エナジーラボを設立。

北山創造研究所ではプロジェクトディレクターとして20余りのプロジェクトを担当し、単なる施設開発にとどめるのではなく街づくりの発想と賑わいづくりの実践とを基本姿勢に構想から設計監修、リーシング、販促運営にいたるまで一貫したプログラムで業務を推進させてきた。「共感」を軸に次世代型の開発プロデュース分野を模索するべく「CO-CREATION TOWN & TOMORROW」をコンセプトに北山創造研究所から分社設立。

#### ◇オブザーバー

#### 小嶋昭弘（経済産業省商務情報政策局クリエイティブ産業課係長）

クール・ジャパン戦略における国内戦略業務を担当。日本のクリエイティブ産業のショーケースである東京において、関係省庁、商店街、百貨店、ディベロッパー、大学等と連携し、街ぐるみで東京のブランド力を高め、観光客誘致及び街や消費の活性化を図る「クリエイティブ東京構想」を推進。また、地域におけるものづくり、食、伝統産業、観光をはじめとした、クール・ジャパンの芽をプロデューサー等外部人材の活用により発掘し、異業種連携の促進と国内外への販路開拓を図る「クール・ジャパンの芽の発掘と連携促進事業」を担当。

## 分科会 2

### 自治体文化政策と 多様な主体との協働

豊島区は、区民、民間企業、大学、アート NPO などと積極的に連携・協働して文化政策を推進し、それらが評価された結果、平成 20 年度文化庁長官表彰＜文化芸術創造都市部門＞を受賞しました。

この分科会では、豊島区における協働の事例を踏まえつつ、「基礎自治体 × 広域自治体 × 文化財団 × NPO」の連携、地方都市における事例等に基づき議論を行い、それぞれの主体がより良い関係を構築するための手がかりを探りたいと思います。

#### ◇コーディネーター

#### 蓮池奈緒子（NPO 法人アートネットワーク・ジャパン（ANJ）代表）

文学座、東京グローブ座勤務を経て、'97 年東京国際舞台芸術フェスティバル（02 年～東京国際芸術祭）実行委員会事務局入局。2000 年、事務局 NPO 化に伴い ANJ 職員となり 03 年～事務局長、08 年～現職。01 年「廃校プロジェクト」として都内廃校リサーチ、04 年 8 月豊島区旧朝日中学校に文化芸術創造支援事業「にしすがも創造舎」をオープン。07 年「にしすがもアート夏まつり」をプロデュースし「子どもに見せたい舞台シリーズ」を立ち上げた。ANJ 代表として自治体との協働事業を推進。現在豊島区、東京都と共催で「としまアートステーション構想」を進行中。「フェスティバル／トーキョー」実行委員会事務局長（08 ～）。文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）選考委員（09 ～ 11 年度）。<http://anj.or.jp/>

#### ◇パネリスト

#### 大沼映雄（公益財団法人としま未来文化財団事務局長）

1999 年から豊島区教育委員会事務局次長、その後区民部長、政策経営部長、文化商工部長を歴任。豊島区の文化政策に関与。企画課時代の 1994 年から、東京芸術劇場を中心に開催された「東京国際演劇祭」や「池袋演劇祭」を担当。また 2002 年の区制施行 70 周年事業を契機とした豊島区の文化政策の立案に携わり、NPO や公益法人あるいは地域の団体と連携した文化政策の推進、産業と文化との融合した事業の立案などに取り組んだ。具体的には、豊島区民の歌「としま未来へ」の制作、舞台芸術交流センターの開設、熊谷守一美術館の公立施設への移行、NPO と組んだ「にしすがも創造舎」や「みらい館大明」の開設、公益法人改革の一環としての「としま未来文化財団」の誕生、国内外の都市との文化交流などを手がけた。2010 年 4 月から現職。

#### 是永幹夫（大分市複合文化交流施設「ホルトホール大分」統括責任者、株式会社わらび座相談役）

わらび座では、月刊誌編集長、国際部長、制作部長、公演営業部長、劇団代表を歴任。ミュージカル「銀河鉄道の夜」「棟方志功」「天草四郎」「アテルイ」「火の鳥」「アトム」「おもひでぼろぼろ」等の制作に関わり、全国公演を展開した。わらび座経営の「たざわこ芸術村」、愛媛の企業と共同経営の「坊っちゃん劇場」等の展開に現在も関わっている。「足元を掘れ、そこに泉が湧く」をモットーに地域発信・地域連携の活動を推進している。

文化庁「国立文化施設のパブリックリレーションズ機能向上の調査研究会」委員。「国民文化祭あきた・2014」基本構想検討委員&企画委員。

#### 曾田修司（跡見学園女子大学マネジメント学部教授、社団法人国際演劇協会（ITI/UNESCO）日本センター理事・事務局長）

東宝株式会社演劇部宣伝企画室勤務を経て、1990 年代より、「東南アジア祭 '92」「TOKYO 演劇フェア '95」の広報ディレクター、「東京国際舞台芸術フェスティバル」「芸術見本市」などの運営事務局を担当。2002 年より大学にてアーツ・マネジメント及び文化政策に関わる教育研究に携わる。現在、公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団理事、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン理事の他、豊島区生涯学習推進協議会（2007 年度～）、神奈川県立県民ホール指定管理業務実績評価委員会（2011 年度～）、東京芸術劇場外部評価委員会（2012 年度～）、杉並区文化・芸術振興審議会（2012 年度～）などの委員を務める。日本文化政策学会（監事）、文化経済学会〈日本〉他に所属。

#### 宮本諭（NPO 法人コレクティブハウジング社共同代表理事、NPO 法人としま NPO 推進協議会理事）

2006 年立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科在学中に「コレクティブハウジング社」と出会い、自身もコレクティブハウスに住み始める。ハウス居住者の仲間とともに、地域とつながるための試みを実施する中で「豊島区まちづくりバンク」に応募したことがきっかけで、豊島区内の多様な NPO に出会う。

「としま NPO 推進協議会」との出会いをきっかけに、2012 年、豊島区居住支援協議会が募集する「空き家・空き室等の活用を図った居住支援モデル事業」に対し、コレクティブハウジング社として「タウンコレクティブ」の計画を提案し、採択される。「地域とつながりをもちながら暮らしたい人のための居住支援事業」として、現在、豊島区住宅課、豊島区居住支援協議会、他の採択団体と協働で豊島区タウンコレクティブの構築に向けて活動中。

#### 森司（東京アートポイント計画 ディレクター）

1960 年愛知県生まれ。2009 年 4 月より公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化発信プロジェクト室地域文化交流推進担当課長。水戸芸術館現代美術センター学芸員として、クリスト、長沢英俊、野村仁、川俣正、椿昇、日比野克彦、宮島達男らの個展ほか、グループ展「日常の喜び」（2008）、水戸の街でアートを展開する「カフェ・イン・水戸」（2008）などを手がける。第 11 回バンガラディシュ・ビエンナーレ（2003）日本コミッショナーを務める。その後、「東京アートポイント計画」の立ち上げから関わり、ディレクターとして NPO 等と協働したアートプロジェクトの企画運営、人材育成プログラムを手がける。豊島区、足立区や三宅村との共催事業など 10 数事業を展開している。2012 年 7 月より「Art Support Tohoku-Tokyo（東京都による 芸術文化を活用する被災地支援事業）」のディレクターも務める。

## 基調講演

### 「日本の再生と都市の役割」

#### 近藤 誠一（文化庁長官）

1946 年生まれ、神奈川県出身。東京大学教養学部教養学科卒、東京大学大学院法学政治学研究科中退。  
1972 年外務省入省。在米国日本大使館参事官、同公使、外務省経済局総務参事官などを経て、外務省経済局審議官、OECD（経済協力開発機構）事務次長、外務省広報文化交流部長、国際貿易・経済担当大使、UNESCO（国連教育科学文化機関）日本政府代表部特命全権大使、駐デンマーク特命全権大使、2010 年 7 月より文化庁長官。



## 事例紹介

### 「豊島区の文化によるまちづくり」

#### 高野之夫（豊島区長）

1937 年豊島区生まれ。豊島区立池袋第五小学校卒業。1960 年立教大学経済学部卒業。1983 年 5 月～1989 年 6 月豊島区議会議員（2 期）、1989 年 7 月～1999 年 3 月東京都議会議員（3 期）、1999 年 4 月豊島区長に就任。区長就任後は一貫して文化を基軸としたまちづくりを進める。2004 年 1 月豊島区の文化政策に関する提言を受け、2005 年 9 月文化創造都市宣言、2006 年 4 月豊島区文化芸術振興条例施行、2010 年豊島区文化政策推進プラン策定と、文化政策を体系的に推進。一方で、「参加と協働」を強く意識した区内の多様な主体が一丸となったまちづくりを重視。2009 年 1 月豊島区は文化庁長官表彰＜文化芸術創造都市部門＞を受賞。趣味は、絵画（クレヨン水彩）、読書など。



## パネルディスカッション

### 「これからの文化創造都市 としまのデザイン」

このパネルディスカッションでは、豊島区をより魅力的な都市にするために、各界の第一級の知恵を結集し、文化、産業（経済）、教育、都市デザインなど複数の政策分野が総合的に循環する魅力的な都市空間の実現に向けて、今後、何が求められているのかを明らかにしてみたいと思っています。

このテーマは、多くの都市にとっても関心があるものだと思います。議論を通して、新しい発想やアイデアが出てくることを期待しています。

#### ◇コーディネーター

#### 後藤 和子（埼玉大学経済学部・経済科学研究科教授）

京都大学理学部卒業・京都大学大学院経済学研究科修了 博士（経済学）。国際文化経済学会（ACEI）理事（2006～2012 年）。文化経済学会＜日本＞会長（2010 年 7 月～2012 年 9 月）として、2012 年 6 月京都にて国際文化経済学会大会を主催。オランダ・エラスムス大学客員教授（2004～2005 年）。主な著書に『芸術文化の公共政策』（勁草書房、1998 年）、『文化政策学』（編著、有斐閣、2001 年）、『市民活動論』（福原義春氏との共編、有斐閣、2005 年）、『文化と都市の公共政策：創造的産業と新しい都市政策の構想』（有斐閣、2005 年）、2013 年春には、クリエイティブ産業に関する新著を、有斐閣から刊行予定。



#### ◇パネリスト

#### 工藤 恭孝（株式会社ジュンク堂書店代表取締役社長）

1950 年兵庫県生まれ。立命館大学卒業後、父親が経営する書籍取次会社・キクヤ図書販売に入社。1976 年に父の工藤淳（くどう・じゅん）氏の名前を逆さまにして命名した「ジュンク堂書店」の社長として独立し、神戸・三宮に 1 号店をオープン。専門書を中心に徹底した品揃え、ゆったりスペースで顧客を拡大した。現在、丸善書店株式会社の社長も務めジュンク堂書店、丸善書店をあわせ全国に 83 店舗を展開している。



## 隈研吾（建築家）

1954 年神奈川県生まれ。東京大学大学院建築学専攻修了。コロンビア大学建築・都市計画学科客員研究員などを経て、1990 年に隈研吾建築都市設計事務所を設立。2001 年より慶応義塾大学教授、2009 年より東京大学教授。主な作品に「梶原 木橋ミュージアム」(芸術選奨文部科学大臣賞（美術部門）)、「根津美術館」(毎日芸術賞)、「森舞台／登米町伝統芸能伝承館」(日本建築学会賞)、「亀老山展望台」、「M2」、「水／ガラス」、「那珂川町馬頭町広重美術館」(村野藤吾賞)、「ティファニー銀座」、「朝日放送新社屋」など。著書に『反オブジェクト』、『新建築入門』、『建築の危機を超えて』、『負ける建築』など。



## 蓮池奈緒子（NPO 法人アートネットワーク・ジャパン（ANJ）代表）

文学座、東京グローブ座勤務を経て、'97 年東京国際舞台芸術フェスティバル（02 年～東京国際芸術祭）実行委員会事務局入局。2000 年、事務局 NPO 化に伴い ANJ 職員となり 03 年～事務局長、08 年～現職。01 年「廃校プロジェクト」として都内廃校リサーチ、04 年 8 月豊島区旧朝日中学校に文化芸術創造支援事業「にしすがも創造舎」をオープン。07 年「にしすがもアート夏まつり」をプロデュースし「子どもに见せたい舞台シリーズ」を立ち上げた。ANJ 代表として自治体との協働事業を推進。現在豊島区、東京都と共催で「としまアートステーション構想」を進行中。「フェスティバル / トーキョー」実行委員会事務局長（08～）。文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）選考委員（09～11 年度） <http://anj.or.jp/>



## 福地茂雄（東京芸術劇場館長、アサヒグループホールディングス株式会社相談役）

福岡県北九州市出身。長崎大学経済学部卒業(前長崎大学同窓会瓊林会会長)。1957 年 4 月アサヒビールに入社。大阪市内担当をスタートとし、長く営業畑を歩む。取締役大阪支店長等を経て、1999 年 1 月に代表取締役社長に就任。2002 年 1 月代表取締役会長に就きアサヒビール芸術文化財団の理事長を兼務。2006 年 3 月相談役となったが、2008 年 1 月に NHK 会長として再び事業経営に携わる。2011 年 1 月 NHK 会長の任期 3 年間を満了して退任。再びアサヒグループホールディングス相談役に就く。芸術文化活動に積極的に取り組み、2007 年 4 月に企業メセナ協議会理事長、2007 年 11 月東京芸術劇場館長、2011 年 4 月新国立劇場理事長に就任し、現在に至る。



## 吉岡知哉（立教大学総長）

1953 年東京都生まれ。1976 年 3 月東京大学法学部卒業。法学博士。1980 年 4 月立教大学法学部助手に着任。同講師・助教授を経て、1990 年 4 月同教授。2002 年 4 月～2006 年 3 月法学部長。2010 年 4 月立教大学第 19 代総長。日本私立大学連盟常務理事、大学基準協会理事、大学設置・学校法人審議会特別委員（大学設置分科会）。所属学会：日本政治学会、日本 18 世紀学会、政治思想学会、International Society for Eighteenth-Century Studies（米国）。主な著書：『ジャン＝ジャック・ルソー論』（東京大学出版会 1988 年）



## レセプション

企画：としまアートステーション構想事務局

「としまアートステーション構想」は、豊島区が、2011 年度から東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）、NPO 法人アートネットワーク・ジャパンとの協働で展開している事業です。この事業では、アートプロジェクトの一つとして、その拠点である としまアートステーション「Z」の厨房を活用した、食を通して人と人を繋ぐプロジェクトを実施しています。本日のレセプションは、「としまアートステーション構想」のご紹介とともに、食のアートプロジェクトで活躍する 3 組のアーティストによるコーディネートでテーブルをご用意しました。

## フードコーディネート

## EAT & ART TARO（アーティスト）

食をテーマにした作品をつくる現代美術アーティスト。調理師学校卒業後、レストラン勤務など飲食店での料理経験を経て、食に関するプロジェクト作品制作、美術館のカフェなどのプロデュース、さまざまなアートイベントのケータリングなどを手がける。地域のアートイベントや食育活動などに多数参加し、プロジェクト作品を多く手がける。  
<http://eat-art.s2.bindsite.jp>

## 中山晴奈（フードデザイナー）

1980 年千葉県生まれ。筑波大学卒業後、東京藝術大学大学院先端芸術表現を専攻し、修了後は会社勤務と並行して食のデザインで週末起業をする。2008 年より NEXT KITCHEN の活動を開始、美術館や博物館で食を使ったコミュニケーションデザインや出張料理、ワークショップなどを行う。調理師専門学校や美術大学の講師も務める。SFC 研究所上所員（訪問）として、地域と食のプロジェクトにも参加。2012 年より NPO フードデザイナーズネットワーク理事。  
<http://fooddesigners.net> <http://nextkitchen.net>

## L PACK（カフェユニット）

小田桐奨、中嶋哲矢によるカフェユニット。バックバックに詰めたカフェを様々な場所で開封し、「コーヒーのある風景」をつくりだす。コーヒーを媒体とした人との出会いやコミュニケーションの誘発と、臨機応変な空間演出により、まちの要素のひとつになることを目指す。2007 年よりコーヒーのケータリング活動開始。2010 年～12 年「竜宮美術旅館」（横浜）、2012 年「現在民藝館丸山邸」（松本） <http://lpack.exblog.jp/>



参考資料 1 豊島区におけるクリエイティブ産業の集積（地域別事業所数）



